（様式第８号）

事業報告書（平成30年度）

事業名　哲学対話進行役の育成事業

団体名　てつぷら岡山　　担当者名　木下　志穂

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
哲学対話（哲学カフェ）進行役を育成するため、対話の場づくり、問いの立て方、質問の仕方、哲学カフェの作り方を学ぶゼミ（全５回）を実施。 第１回 日時：8月19日（日）14:00～17:00 場所：ゆうあいセンター　中会議室 テーマ：哲学カフェの作り方 第２回 日時：10月28日（日）14:00～17:00 場所：天神山文化プラザ　会議室１ テーマ：考えを理解するための質問力１ 第３回 日時：11月24日（土）14:00～17:00 場所：ゆうあいセンター　研修室２ テーマ：考えを理解するための質問力２ 第４回 日時：2月23日（土）10:00～14:00 場所：西川アゴラ テーマ：対話の地図の描き方 第５回 日時：2月23日（土）14:00～17:00 場所：西川アゴラ テーマ：哲学カフェの進行をしてみよう！ ※当初9/30を第二回として予定していたが、台風のため延期。第４回・５回を同日実施とした。

（様式第８号）

各回は、講義⇒ワーク　の順に展開。

参加対象者

哲学対話に興味のある一般市民

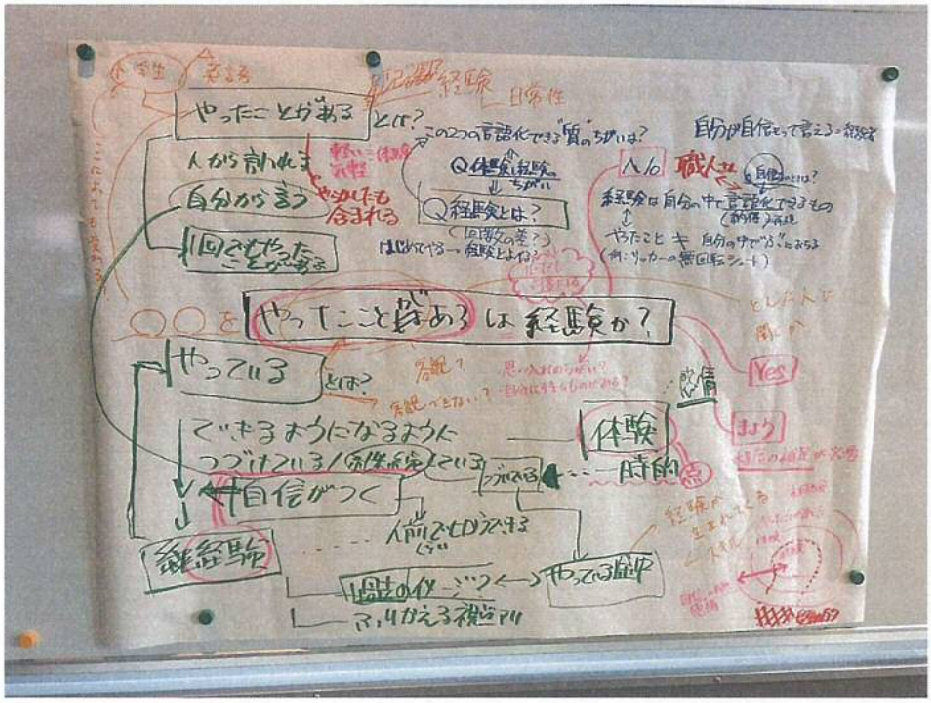
人数

１２名（学生、ケアマネージャー、会社員、教員、大学職員　等）

▼下記、講座の様子

（様式第８号）

（様式第８号）



２．ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

「まちづくり」「教育」「協働」の観点でプログラムを設計。声かけも多様な人々が集まる施設（公民館、ゆうあいセンター、文化施設、カフェ等）に行いました。

「年齢や肩書きなどあらゆる違いを超えた個人が集まり、対等に対話できる場をつくる」ことを目的として、「誰もが」「対等に」「対話をする」ための進行役に必要な観点や姿勢を学ぶことに主眼を置いたプログラムとしました。

３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

講座開講中、参加者には新たな発見があり、哲学的に考えるとはどういうことか、対等に対話するとはどういうことか、新たに気づく様子がありありと見えました。

参加した受講生全員が「大変満足/満足」と回答。満足度の高い企画となりました。

４．今後の課題と展望

【課題】

(1)広報

「より広く、多様な人々に情報を届ける」

広報手段としてチラシを市内の公民館、コミュニティスペース等へ送り周知のお願いをしましたが、チラシを見ての参加は少なかったようです。参加申込者の多くは知人からの紹介や「てつぷら岡山」の Facebook に登録していた人で、哲学対話が社会の様々なシーンで役立ち得るものであるからこそ、より広く、多様な人々に周知するため、広報に工夫する余地があると感じました。

(2)実施時期・回数

（様式第８号）

８月（台風シーズン）回は延期、２月（インフルエンザ流行期、受験シーズン）は欠席者が続出するなどトラブルがありました。また、実施時期が開く内容を忘れてしまうという声もありました。実施リスクの高い時期をずらし、もう少し短期間で集中して実施ができないか検討していきたいと思います。

【展望】

参加者から「普段接することができない人と学び合えることで多くの気づきがあった」「同様の企画があれば、ぜひまた参加したい」という声が上がりました。また、今回の講座で学んだことを、参加者それぞれが自身の現場で生かしたいという回答も多くみられ、哲学対話が社会の様々なシーンで応用され得る可能性が感じられました。本講座のように年齢も職業も多様な市民が集まり、哲学対話を学び合える機会を、次年度も継続して提供できればと思っています。